

朝 礼 拜 順 序 (午 前 10 時 半)

前	奏		
開 会 招 詞		司 式	熊田雄二牧師
* 賛 美 歌	7 父の神よ夜は去りて(讃美歌 24)	奏 楽	大日南苗香姉妹
* 開 会 祈 禱			
罪 の 告 白	祈禱書 2		
罪の赦しの宣言			
十 戒	祈禱書 4		
* 賛 美 歌	46 主は命を与えませり(讃美歌 332)		
公 同 の 祈 禱	祈禱書 7 キリストの二性一人格		
献 金	(黒) 教会活動 (赤) 退職教師住宅費援助を覚えて 70		
<u>毎週の礼拝献金については、会堂での礼拝再開時に、まとめてお捧げください。</u>			
毎月の教会献金(月定)についても、会堂での礼拝再開時に、まとめてお捧げください。			
聖 書 朗 読	エフェソの信徒への手紙 1 章 20~23 節 (新約 3 5 3 頁)		
説 教 ・ 祈 禱	政治規準「神の右に座すお方」		熊田牧師
* 賛 美 歌	26 子羊をばほめたたうる(讃美歌 164)		
* 主 の 祈 り	祈禱書 1		
* 頌 栄	64 み恵みあふるる(讃美歌 540)		
* 祝 禱			
後 奏			
報 告			長老

○ 本日 ● 午後 1 時 コロナ対策班ネット会議

○ 次週 ● 午後 1 時 臨時小会・臨時執事会 コイノニアホール&ネット

【次週朝拝】コロサイ 3:12-17 礼拝は生命③「詩篇と讃歌と霊的な歌」熊田牧師
 ソングシート 12(讃美歌66)、48(讃美歌338)、51(讃美歌361)、
 64(讃美歌540) 森永美保姉妹

6月	CS幼少	CS中高	CS成人	朝 拜	子ども/ユニ7	夕 拜
7				熊田牧師		
14				S 宣教師		
21				熊田牧師		
28				熊田牧師		

朝拝説教はインターネット動画 (HPより)・メール配信あるいは郵送します

教会規程前文

一 教会の王にして頭なる主イエス・キリスト

主イエス・キリストは、教会の王にして頭であり、その力と栄光に関して、聖書は次のように記している。「権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し、平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって、今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。」(イザヤ書 9：5-6)

「私は天と地の一切の権能を授かっている。」(マタイ 28：18)

「神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、権力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」(エフェソ 1：20-23)

この主イエス・キリストは、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られ、彼の教会のために賜物を授け、教会を造り上げ聖なる者たちを整えるために、必要な役員を与えられた(エフェソ 4：8、10-12)。

主イエス・キリストは、仲保者、たぐいのない預言者、祭司、王、救い主、教会の頭であり、教会の一切の職務を身に帯びておられる。それ故、彼は、使徒(ヘブライ 3：1)、教師(ヨハネ 13：13)、牧師(一ペトロ 2：25)、しもべ(マタイ 20：28)、監督(一ペトロ 2：25)、また、神の国の唯一の立法者(ヤコブ 4：12、創世記 49：10)と呼ばれる。

昇天後、主イエス・キリストは、御言葉と聖霊によって教会に臨在され、彼のすべての職務から来る益は、聖霊によって実を結ぶのである。

主イエス・キリストは、栄光の御座より至高の権威を現し、御言葉と聖霊により、人の奉仕を用いて、教会を治め教えられる。こうして、その権力を行使し、その律法を実施することにより、御自身の御国を打ち立てられるのである。

主イエス・キリストは、教会の王また頭として、教会に、仕え人、教導の言葉、礼典を含む礼拝儀式その他の活動を与えられ、特に、教理、政治、訓練、礼拝の大綱を定められた。これらすべては、聖書が明らかに教えているか、さもなければ聖書から必然的に推論することのできるものである。ただし、神礼拝と教会政治の中には、御言葉に従いつつ、理性とキリスト教的分別とによって規制されなければならない幾つかの事情がある(ウエストミンスター信仰告白第一章六節参照)。

しかしながら、これらの大綱が、聖書に明白に述べられている限りにおいて、何物も付加してはならないし、削除してもならない。

二 日本キリスト改革派教会の憲法の構成

日本キリスト改革派教会の憲法は、信仰規準・教会規程の二部から成る。

信仰規準は、日本キリスト改革派教会信仰規準の前文を付したウエストミンスター信仰告白・大教理問答書・小教理問答書から成る。

教会規程は、政治規準・訓練規定・礼拝指針から成る。

I 役員誓約事項③「あなたは、私たちの教会の教会規程に従うことを誓約しますか。」

- ① あなたは、旧・新約聖書が神の言葉であり、信仰と生活の唯一の誤りなき規準であると信じますか。
- ② あなたは、私たちの教会の信仰規準を、聖書の真理を体系的に示すものとして誠実に受け入れますか。

今年のテーマ「新しい出発に備えて」、役員誓約事項を学んでいます。これまで、①と②を、信徒の誓約6カ条＝信仰と生活に関わることを確認しながら、学んできました。きょうは、③ですが、これは信徒の誓約第6項と関わります。「あなたは、日本キリスト改革派教会の政治と戒規とに服し、その純潔と平和のために努めることを約束しますか。」 「政治と戒規とに服従する」とは、具体的には、役員への指導に従うことです。では、役員は何に従って指導すると誓約しているのでしょうか。それが、日本キリスト改革派教会の「教会規程」です。きょうの週報に印刷してある「教会規程前文」を学びますが、項目が一と二とあります。まず、二の方を見てください。

二 日本キリスト改革派教会の憲法の構成

日本キリスト改革派教会の憲法は、信仰規準・教会規程の二部から成る。信仰規準は、日本キリスト改革派教会信仰規準の前文を付したウエストミンスター信仰告白・大教理問答書・小教理問答書から成る。教会規程は、政治規準・訓練規定・礼拝指針から成る。

役員は日本キリスト改革派教会の憲法に誓約することを求められるのですが、その憲法は「信仰規準・教会規程の二部から成る。」とあります。信仰規準については先週まで2回学びました。おもに創立宣言にある「信仰規準の前文」から、なぜ、ウエストミンスター信条を採択したかという理由を学びました。

きょうは、「教会規程」ですが、それは「政治規準・訓練規定・礼拝指針から成る」とあります。信徒の誓約第6項に「政治と戒規」とあるのは、教会規程で言うと「政治規準と訓練規定」に当たります。戒規とは誓約違反への罰に関する規定ですが、キリストによる弟子訓練です。

まず、何度も確認する漢字のことですけれども、いまだに信仰規準や政治規準の「規準」を「基準」と書く間違いがあちこちで見受けられます。「規準」とはルールで、「基準」とは元になる標準＝スタンダードです。創立宣言に「信仰規準前文」がありますが、『ウエストミンスター信仰基準』を「我らの教会の信仰規準とする」としたので、『ウエストミンスター・スタンダード』は「日本キリスト改革派教会の信仰のルール」になりました。そこで、信仰規準や政治規準を「規準」と言う場合はルールですので、ルール違反に対する罰則

規定が伴うのです。戒規という罰も弟子訓練なので「訓練規定」と言います。

さて、『教会規程』は、「政治規準」と「訓練規定」と「礼拝指針」から成り、一冊にしています。今度は「規程」と「規定」の区別があるわけですが、「規程」はオーダーの訳語ですので、「注文」どおりにしないといけません。コーヒーを注文したのに紅茶が来れば、いれなおしです。野球の打順をオーダーと言いますが、チャンスだからといって順序を変えるわけにはいきません。ピンチヒッターを注文しないといけないのです。

オーダーとは、ルールを含んだ「秩序」を意味します。そこで、『教会規程』は、「政治規準」と「訓練規定」と「礼拝指針」というルールを含んだ、教会秩序「オーダー」なのです。それでは、そのオーダー、『教会規程』の前文「一」を読みましょう。

Ⅱ 日本キリスト改革派教会 教会規程前文

一 教会の王にして頭なる主イエス・キリスト

主イエス・キリストは、教会の王にして頭であり、その力と栄光に関して、聖書は次のように記している。

「権威が彼の肩にある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君』と唱えられる。ダビデの王座とその王国に権威は増し、平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって、今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。」（イザヤ書 9：5-6）

「私は天と地の一切の権能を授かっている。」（マタイ 28：18）

「神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、権力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」（エフェソ 1：20-23）

この主イエス・キリストは、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られ、彼の教会のために賜物を授け、教会を造り上げ聖なる者たちを整えるために、必要な役員を与えられた（エフェソ 4：8、10-12）。

主イエス・キリストは、仲保者、たぐいのない預言者、祭司、王、救い主、教会の頭であり、教会の一切の職務を身に帯びておられる。それ故、彼は、使徒（ヘブライ 3：1）、教師（ヨハネ 13：13）、牧師（一ペトロ 2：25）、しもべ（マタイ 20：28）、監督（一ペトロ 2：25）、また、神の国の唯一の立法者（ヤコブ 4：12、創世記 49：10）と呼ばれる。

昇天後、主イエス・キリストは、御言葉と聖霊によって教会に臨在され、彼のすべての職務から来る益は、聖霊によって実を結ぶのである。

主イエス・キリストは、栄光の御座より至高の権威を現し、御言葉と聖霊により、人の奉仕を用いて、教会を治め教えられる。こうして、その権力を行使

し、その律法を実施することにより、御自身の御国を打ち立てられるのである。

主イエス・キリストは、教会の王また頭として、教会に、仕え人、教導の言葉、礼典を含む礼拝儀式その他の活動を与えられ、特に、教理、政治、訓練、礼拝の大綱を定められた。これらすべては、聖書が明らかに教えているか、さもなければ聖書から必然的に推論することのできるものである。ただし、神礼拝と教会政治の中には、御言葉に従いつつ、理性とキリスト教的分別とによって規制されなければならない幾つかの事情がある（ウエストミンスター信仰告白第一章六節参照）。

しかしながら、これらの大綱が、聖書に明白に述べられている限りにおいて、何物も付加してはならないし、削除してもならない。

Ⅲ 教会のかしら

① 読みましたように、教会政治でいちばん大事なことは、イエス・キリストが教会の王であるということです。このことを、『教会規程』の「前文」は強調しています。引用している聖書箇所のエフェソ書で言うと、神が「天において御自分の右の座に着かせ」られた、ということです。

すなわち、復活の主キリストは昇天して、王座を意味する神の右に座っておられます。この王権の意味するものは、「すべての支配、権威、勢力、主権」。すなわち、天地創造の規模での王権です。宇宙も地球も、地球上の国々も含みます。また、見えない世界も全て含みます。この世を惑わす悪霊も、人間に罪を犯させる悪魔も、人類を破滅させようとするサタンをも含む支配力です。

だから、この方こそ、「今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれた」永遠の王なのです。ダビデ王に約束された永遠の王が救世主メシアでしたが、ただの人間はどんなに偉大であっても永遠ではないです。自分の支配がいつまでも続くようにと願っても、王朝はいつか途絶え、王国はいつか破られます。それが人類の歴史でした。

この世界を救う永遠の王は、この世界をお造りになった神御自身の方から来られました。その方は、神の子にして人となられたお方です。人間の姿で十字架に架かり、人間の罪を滅ぼしてくださったお方です。死人の中から復活して、死をもたらず悪魔の企みを打ち破ってくださったお方です。このお方が、私たちの救い主・王として、「すべての支配、権威、勢力、主権」を持っておられるのです。

② そして、このお方が、「人の奉仕を用いて」教会と国家を治められるのですから、何という光栄でしょうか。教会の場合、「必要な役員を与えられ」るのですが、会員に選挙権が与えられるという光栄まで伴います。実際、会員総会で牧師・長老・執事を選挙しますから、見た目には議会制民主主義のようです。しかし、教会政治の本質はキリスト王権制なのです。

国家も社会も人間が治めますが、「生めよ、増えよ、地に満ちよ、地を治めよ」と言われた神のご命令のもとに、神のしもべとして治めます。治め方は、

一人が治めるか、代表者たちが会議で治めるか、全員で治めるか、三通りで
す。

教会政治では、監督政治か、長老政治か、会衆政治かということですが、
いずれであっても、教会は、「イエス様が王様です」と告白する、キリストの
王国なのです。

③ もうちょっと説明すると、神の御子キリストは旧約時代も主権を持って
おられた主でありました。「アブラハムが生まれる前から、私は“ある”」と
言われたからです。旧約時代は、預言者・王・祭司に油が注がれて職務に就
きました。「油が注がれる」というのは、主の霊が注がれるということです。
だから、預言者・王・祭司は神の御子がお立てになったとも言えるのです。

そのお方が、クリスマスの日、イエスという名前でお生まれになりました。
いと高き神の御子が、この世に降って、救い主としてお生まれになりました。
そして大人になって、ヨルダン川で洗礼をお受けになったとき、天が開いて
聖霊が鳩のように降りました。こうしてメシアの任職式を受けてから、主イ
エスは、預言者・王・祭司の働きをダイナミックに展開していかれました。
特に最後の十字架刑は、祭司が献げるいけにえそのものでありました。

誕生と生涯・死と復活・昇天と着座により、天地の一切の権能を授けられ
た主イエスは、国々のかしらでもあられますが、特に教会のかしら＝王とし
て、ご自身の体なる教会を治めていかれます。長老主義政治の場合、教師・
長老・執事という職務をお立てになります。キリストの権能を託された長老
会議は、聖霊を注いでくださいと祈って按手札を授けます。それから職務に
就きます。

また、今現在、「牧師招聘への祈り」が課題ではありますが、キリストは、ご
自身の言葉でご自分の羊たちを集め、ご自身の言葉でご自分の教会を治めて
いかれます。そこで、御言葉の教師の働きは特に大切です。按手を受けた教
師が、牧師として、それぞれ教会の招聘に応じて派遣されていきます。中会
は、教師の按手を託されていることが、いちばん大事な点です。